
空の軌跡 ~ 漆黒の転生者 ~

西斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空の軌跡 ～漆黒の転生者～

【Nコード】

N8541Z

【作者名】

西斗

【あらすじ】

普通な世界をつまらなく感じた少年はトラックにはねられ死んだ。そして、神により別の世界に転生される。今、少年の新しい人生が始まる。

(初めての作品になります。作者の都合で書いていますので、嫌な方は引き返して下さい。お読みくださる方は感想をお願いします。)

ブログ 上(前書き)

誤字、脱字などありましたら御指摘お願いします。

悪態、嫌味などはご遠慮下さい。

プロローグ 上

とある少年は普通の生活の中、とある変化を求めていた。

だがそれは、まともな人からしてみても、良くいえば夢、悪くいえば妄想、そう言われる変化だ。

しかし、少年の夢は、少年にとって現実となる。

‘ 20XX年11月某日 ’

今日は俺 黒澤 勇（くろさわ ゆう）の誕生日だ。今日で17歳になり普通に生きてきたがそんなに良い人生ではなかった気がする。

悪い人生だったわけじゃない。

普通に家族もいたし、普通に友達もたくさんいた、普通に高校にも通って、不自由なく普通に暮らして行きてきた。

けど、その“普通”がつまらなかった。

日常の中でマンガやSF・ファンタジーな小説を読むたび思うことがあった。

『俺の生きている世界はつまらない』

小説を読むたび、こんな世界だったらいいのに…といつも思っ
てしまう。
友達に話したことがあるが、「それは妄想だろ？」なんて言っ
て笑われた。
自分でもそれはわかっているが、ますます自分の思いは大きくな
っていった。

ある日俺はある小説を読んだ。それは死んだ人間が転生し別の世界
で活躍するという物語だった。

これなら俺でも…と思ったが、死ぬのは怖いし痛いのも嫌だから無
理だった。

だけど…俺は死んだ。

痛みも恐怖も感じる暇も無く。死んだのだ。

目の前には道路の真ん中で全身血まみれの自分が転がっていてその
先に大型トラックがガードレールに突っ込んだ状態で止まっている。
更に救急車やパトカーまで来ていて、俺は死んだということがすぐ
にわかった。

「……死んでみてどうですか？」

いきなり声がかけれられ反射的に振り向くとそこには白い翼の生えた
女性が浮いていた。

「えっ？て、天使？！」

「はい、天使です。で、死んだ気分はいかがですか？」

あっけなく返事をしてくる天使に俺は返す言葉を考えた。そして結

論は…

「あつという間でよくわからなかったよ。」

「…そうですね、では行きましょつか。」

「??、えっ、どっどこ?」

「神様の元へですよ。」

プロローグ 下

気がつくのと辺り一帯が真っ白な空間だった。

「神様、彼を連れてきました。」

天使の女性がそう言うと、目の前に白髭の老人が現れた。

「おお、ご苦労さん。下がって良いぞ。」

老人が言うと女性は何も言わずにそこから消えた。

「さて、君は黒澤 勇であつとるかのう？」

「え、はい、そうですが…何か？」

「いや、今まで君のことを見ていて思ったんじゃよ、………つまらなかつたじゃろ？」

「………はい、はっきり言つてつまらなかつたです。」

「なら、他の世界に行つてみるか？」

「行けるの！？………でも、俺は死んだら？どうやっていくんだ？」

「お主を転生させるのじゃ。わしは神だからの、簡単なことじゃよ。」

「まじかよ！転生できるんだ！」

「でもさ、なんでそこまでしてくれるの？」

「じ、実はのう、お主が死んだのはわしのミスなんじゃよ。」

「ミス？何したのさ？」

「寿命で死ぬ筈だった爺さんと間違えてお主の生命力を切ってしまったんじゃよ。」

「ナ、ナンダツテ。」

「ホントにすまんのう。」

「別に良いさ。他の世界に転生させてくれんだろ？それで満足さ！」

「そうか、なら本題に入ろつかのう。どの世界に行きたいのじゃ？」

行きたい世界か、いろいろあるけどやっぱりあそこだな。

「空の軌跡の世界、行ける？」

「おお、あそこじゃな？時期はどうするかのお？」「エステルとヨシユアが会う前から！」

「は、早いのう…では最後にお主の願いを5つ叶えてやろう！」

「まじで！じゃあさっそく一つは身体能力最強で、二つ目は俺が知ってるアニメやゲームの力や能力を使えるようにしてくれ！」

「わかったぞい、……ほい、できたぞ。三つ目はなんじゃ？」

「三つ目は容姿を良くしてくれ。」

「わしは、そんなことしなくても良いと思っぞ？」

え、なんで？

「お主の容姿は元々良かったからの。容姿の変更は却下じゃ。」

そうか？自分じゃ格好良いかなんてわからないからな、まあいいか。

「なら、変わりに行き先の世界の金をくれる？無くならない位の額で。後、4つ目と5つ目は思いつかないから思いついてからで良い？」

「金はおつけーじゃ、まあ無理にとは言わんから思いついてからで良いぞ。ではそろそろ行ってみるか？」

「ああ、良いよ。」

「では、行って来るがよい！」

そして、俺は真っ白の空間から消えた。

「頑張つて来るが良い。」

第一話 転生、出会い、そして家族に（前書き）

主人公親子に会います！

結果的に家族にも…

原作キャラの話し方が違うかもしれませんがご了承ください。

第一話 転生、出会い、そして家族に

勇 side

皆さん、ご機嫌いかがでしょうか？

黒澤 勇です。只今、絶賛落下中なんです。

神様に転生させてもらったのは良いけど、

「落とされるなんて聞いてないんですけどぉ~~~~!!」

取りあえず落ち着いて考えよう。まだ考える余裕のある高さだ、何か無事に着陸する方法があるはずだ。

「……無理だ、急に思いつくわけではない。」

ああ、目の前に川があるよ。

ザパアアアアン!!

Side out

??side

私はエステル・ブライト、今日もお父さんのような立派な遊撃士になるために棒術の修業をしてるんだけど、ふと空を見上げたら何か落ちて来てるんだ。

良く見ると人みたいなんだけど……人が空から落ちて来るわけ無いわよね。

そう思つて修業を切り上げて家入ろうとしたら……

ザパアアアアン!!

家の裏の川で大きな水しぶきが起きた。

「なになに! なんなのよ!」

川の方に行くと、川に人が浮いていた、しかも子供が!

「た、大変! お父さあぁん!」

「どうしたエステル! 凄い音がしたぞ」

「そ、空から人が! 子供が落ちてきて、それで! 川に!」

「なんだと?! 何処だ!?!」

「あ、あ、あそこ!」

「本当だ! エステルはタオルを持ってきてくれ。」

「わかつた!」

でもなんで落ちて来たんだろ?

Side out

勇side

痛てえ、川があつたから助かったけど、全身が超痛い。

「おゝい、大丈夫かあゝ!」

誰かが叫んでる、俺に言ってるのか？とりあえず手、上げとくか。俺は右手を上げた。すると…

「おお、生きているか！」そう言われ、俺は

「勝手に殺すなあ〜！」

と、身体を起こし叫んでしまった。

「す、すまない…さあ、早く川から上がってこっちに来るんだ。」

俺は言われたことに従い、川の中から陸に上がった。

「一体どうしたんだ！？空から落ちて来たみたいだが、怪我は無いのか！？」

「ええ、大丈夫ですが、川に落ちたんで寒いですね。」

「そうか、なら「お父さん、タオル持ってきたよ！」ああ、ありがとう、エステル。とりあえずタオルを身体に掛けておきなさい」そう言っつて男性は少女から受け取ったタオルを渡してきた。

「ありがとうございます。」

渡されたタオルで俺は身体を覆った。

「その家が私の家だから、風呂に入りなさい。風邪をひくと大変だからな。」男性がそう言っつと少女が：「ほら、こっちだよ！」と言っつて俺の手を掴み走り出した。

「ちよっ、待っつて！」

俺の返事を聞かずに少女に家の中に連れられ脱衣所まで来てしまっつた。

「君の着てる服は乾かすから脱いだらそのカゴに入れておいてね。お風呂のお湯は温かいからゆっくり浸かっつててね！」（笑）

「あ、うん、わかった。」

お言葉に甘えて使わせて貰いますかね。そう思い、俺は上着を脱ぎ、次にシャツを脱ごうとしたところであることに気づいた。

「あのさあ、ちよつといいかな？」

「ん？なあに？」

「服、脱ぎたいんだよね。」

少女は、俺が言ったことを理解すると、顔を真っ赤にして、脱衣所から出て行った。

「さてと、入りますか。」

その後、俺は30分程してから風呂から上がり、乾かされた服を着て脱衣所を出た。

脱衣所を出ると少女が待っていて、少女に「お父さんが君に聞いた事があるって言うからついて来て。」と言われ、ついて行くとリビングで男性がテーブルに座って待っていた。

「さあ、座りなさい。君に聞きたい事があるんだ。」

「はい、失礼します。」

俺は男性の正面の席に座り少女は男性の隣に座った。

「まず初めに、私の名前はカシウス・ブライト、この子は娘のエステルだ。」

「よろしくね！」

ちよつと待て、この人達がカシウス・ブライトとエステルときましたか。いや、なんとなくわかってたけど、最初にこの父娘に会える

とは思わなかったぞ。

「よ、よろしくお願いします。」

「それで、君の名前は？」

「あ、俺の名前は黒s……」

待て俺！この世界で日本語の名前は面白くないぞ！

ここは新しい名前にしようじゃないか！

「……じゃなくて、ユウ・ステアードです。」

「ユウ・ステアードか、ではユウ、君は何故空から落ちて来たんだ？」

「それは……」

神様に転生させてもらったなんて言えねえしなあ。とりあえず誤魔化すか。

「実はよく覚えてないんです、気が付いたら落ちてたんです。」

「じゃあユウは何処の生まれだい？」

日本です！…なんて言ってもわかるわけ無いよな。これも誤魔化すしかない。

「すみません、それもわからないんです。自分が今まで何をしていたのかさえ。」

「何も覚えてないとなると記憶喪失か？では行く宛は無いだな。」

「はい、そうなりますね。」

「……うむ、ならばユウ、ここに家に住まないか？」
「え？ここにですか？」

「ああそつだ。君さえ良ければな。エステルも良いだろう？」

「私は賛成だよ！一緒に暮らすなら家族になるってことでしょ？」

「そついう事だ。…どうするかな？ユウ？」

「良いんですか？出会って間もない他人なんですよ？」

「私達は歓迎するよ。一緒に暮らせば他人でなく家族になれる。家族が増えれば賑やかになるからな！」

「そこまで言ってもらえるなら安心できます。ご迷惑をおかけすると思いますがよろしくお願いします、カシウスさん。」

「堅苦しいのはいいよ。家族になるんだ、他人行儀はよしてくれ。」
「わかりました。…父さん、で良いですか？」

「ああ、それで良い！」

「ちよつと〜！私も忘れないでよ！」

「ゴメンね、エステルも忘れないよ。」

「言っておくけど私がお姉さんなんだからね！」

「そう言えばユウは、歳はいくつなんだい？みためからするとエス

テルと同じくらいか？」

「私は10歳だよ！」

「えっと、多分11くらいです。」

さつき風呂に入ってる時に鏡で見たらそのぐらいの身長だった。神様に感謝だな、身体を若返らせてくれたし。

「うそっ！！私よりも年上なの！？」

「そうみたいだよ。」

ついさっきまで17歳だったけどね。

「なら、ユウが兄でエステルが妹だな！」

「そんなあ、シヨックだわ。」

「そんなに落ち込まないで、エステル。」

そんなわけで俺はブライト家の家族になった。

第一話 転生、出会い、そして家族に（後書き）

まだ原作の方は始まらないと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8541z/>

空の軌跡 ~ 漆黒の転生者 ~

2011年12月29日05時53分発行